

# ルポ 地域おこし人

びと

福永栄子(52)＝宮崎市大工3丁目1が代表取締役を務める宮崎市の地域づくりコンサル「アイロード」。

本県を含めた南九州の地域交流誌「みちくさ」を九州管内8千力所に10万部配布している。

活動はそれだけにとどまらない。地域の観光地や食事処を紹介した「いっここー新富」や「さいとこゆ食めぐり」のように多くのガイドブックやパンフレットも製作している。

福永自身もNPO法人たび倶楽部理事長やみやぎきグリーンツーリズム研究会幹事を兼務し、講師として多くの講演も行っている。

## 福永 栄子さん (宮崎)

3月には「みやぎきバルウオークはるバル」という企画を実施。5枚つづりのチケットを、宮崎市内の61店舗の中から好きな店で利用できるという企画だ。

飲食店側の好評を得て、「もう一度やってほしい」との要望もあったことから、10月13日に市民と飲食店が協力して開催する。「イベントによって地域が盛り上がる」としている。これが狙い。

地域の人に光を当て続け

る福永。しかし2011年、新燃岳が噴火した時は悔しい思いをした。「みちくさ」は最初きりしまのページからスタートしたが、噴火の影響から広告費が全

く取れない時期があった。アイロードは紙面の全てを広告費で賄っているため、福永はやむを得ずきりしまのページを休載することを決定した。が、「同じよう

な休載は繰り返さない」と、以前の教訓を生かし福永はすぐに行動を起こした。

「お金がないなら物々交換にしよう」。福永は災害時にも対応できるオーナー制度「みちくさ倶楽部」を12年9月に立ち上げた。アイロードの理念に賛同して入会した会員は会費を支払う。その会費を使って広告費が取れない地域の紙面作りを行った。広告費が払えないホテルや飲食店からは宿泊券、食事券をもらい、会員に還元した。

「お金がないなら物々交換にしよう」。福永は災害時にも対応できるオーナー制度「みちくさ倶楽部」を12年9月に立ち上げた。アイロードの理念に賛同して入会した会員は会費を支払う。その会費を使って広告費が取れない地域の紙面作りを行った。広告費が払えないホテルや飲食店からは宿泊券、食事券をもらい、会員に還元した。

会員制度には他の狙いもあった。宿泊券が届けば、行ってみよつかということになる。「言葉は悪いが無



地域の人と現場で交流する福永。人と人との結びつきを大事にする考えはぶれない

# 活性化向け企画次々